

ステップアップ 畜産！

西部農業事務所家畜保健衛生課（西部家畜保健衛生所）

〒370-0074 高崎市下小島町 233

TEL 027-362-2261、FAX 027-362-2260

～記事～

- ★国内における高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況
- ★愛知県での HPAI 拡大要因とそこからわかる対策
- ★国内の野鳥の HPAI 発生状況及びカラスによる感染拡大リスク
- ★堆肥の販売には届出が必要です
- ★定期報告書の提出をお願いします！

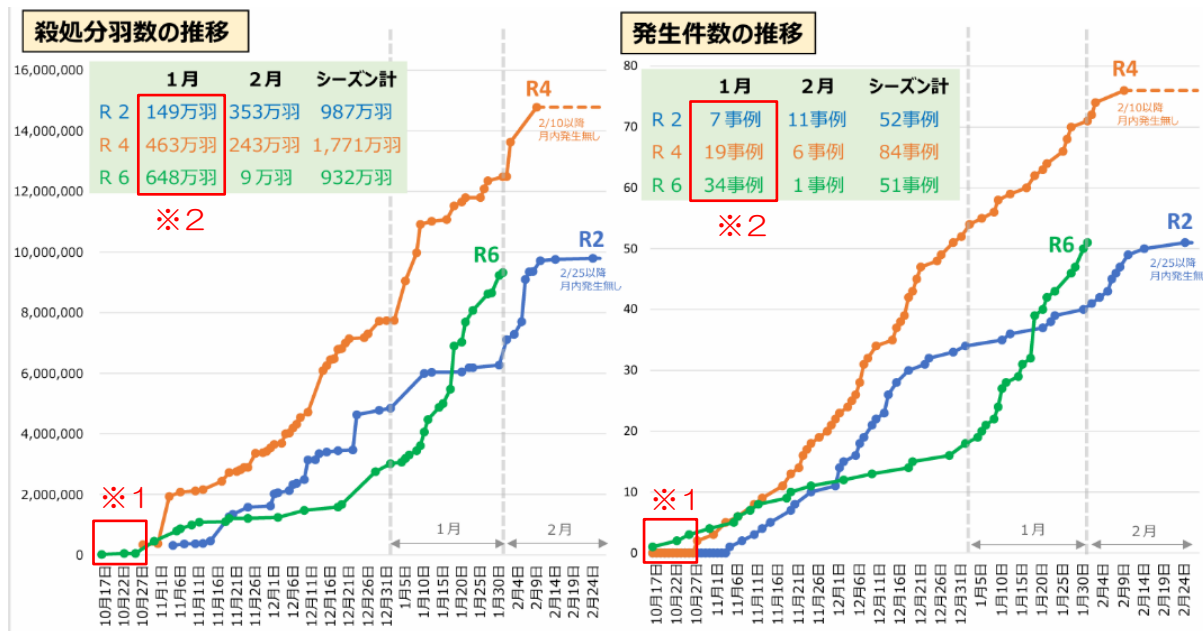
～別添資料～

- ★家畜ふん堆肥の調査に御協力ください！（西部農業農畜産課）

★国内における高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況

今シーズンの農場における HPAI 発生は、10月17日以降、14道県51事例の感染が確認されています（2月24日現在）。今シーズンの初動は、家きんでは過去最多発生となった令和4年シーズンに匹敵するペースで発生（下表※1）がありました。また、トップシーズンである1月に発生が急増し、月間34事例発生・648万羽殺処分と、1月としては過去最多を記録（下表※2）しました。特に養鶏業の集中地域における続発事例が顕著にみられました（千葉県16例、愛知県13例、岩手県5例）。

地域でのまん延を防ぐための対策の基本は、飼養衛生管理の遵守徹底と早期発見・早期通報です。過去4年間は野鳥の北帰行に伴い、3月、4月にも HPAI の発生が確認されていますので、引き続き対策の徹底をお願いいたします。対策の詳細は次ページをご覧ください



過去シーズンとの発生状況の比較(初発～2月末)(R7.2.11 現在)

★愛知県での HPAI 拡大要因とそこからわかる対策（続発事例疫学分析結果） （愛知県における HPAI 続発事例に関する現地対策会議より一部引用）

① 水きん類により地域に HPAI ウイルスが持ち込まれた可能性

発生地域は、農業用ため池、農業用水路、河川が存在し、水きん類を確認。

→ 近隣に池や河川がある農場は特に注意！

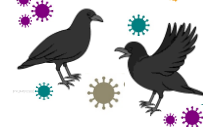
農場内や周辺の水場は可能な限り水抜きし、水きん類の誘因を防ぐ。



② カラス群での HPAI ウイルスの循環と農場への侵入

発生地域ではカラスが多数上空に飛行。周辺の雑木林にねぐらが存在する可能性。愛知県 1 例目の農場は敷地内に陽性カラスを確認。

→ 野鳥誘因防止対策として、**テグス張り（4 ページ目に詳細記載）**、消石灰・消毒薬散布、鶏舎・堆肥舎等への防鳥ネット設置、死亡鶏や廃棄卵の適切な処理やこぼれ餌の清掃、養鶏場周囲の木の伐採実施。



③ 野生動物による拡大

愛知県の 1 ～ 3 例目の所在する養鶏団地には、空き鶏舎が存在。野生動物の住処になっていた可能性。

→ 使用しなくなった鶏舎は野生動物の隠れる格好の場所になるため、閉鎖・施錠。難しい場合には鶏舎内を整理整頓し、可能な限り毎日見回りを実施。

④ 低温・乾燥状態が続く HPAI ウイルスが生存しやすい環境に

HPAI ウイルスが長期生存。12 月～1 月は北～北西から強い風が吹く日が多く、風によりさらにウイルスが地域で拡散した可能性。

→ 浮遊 HPAI ウイルスを物理的に落下させる効果を期待し、**入気口付近に液状消毒薬を散布。消石灰帯の上に逆性石鹼を散布。**鶏舎周辺の散水・消毒。



⑤ 入気口からの HPAI ウイルス侵入の可能性

高いレベルでの飼養衛生管理が実施されているウィンドレス鶏舎の農場においても、発生が確認。**鶏舎への塵埃侵入防止対策**が必要。

→ ウィンドレス鶏舎：入気口へのフィルター設置、細霧装置の設置
開放鶏舎：開口部へ消毒薬をしみこませた不織布の設置等

⑥ 誘導換羽中で異常の発見が遅れ、その間ウイルス量がかなり増大した可能性

→ **異常鶏の早期発見・早期通報**、誘導換羽中は異常を見落としやすいことを留意し、毎日の健康観察を行う。飼養管理ミスをしない（餌・水切れ等）。

＋ 再確認の対策

農場外関係者を含めた飼養衛生管理の徹底

例外なき靴・衣類の交換や消毒の徹底
不要不急の工事の延期で立入りは最小限に

💡 続発地域でも、 $+\alpha$ の対策で飼養衛生管理レベルを一段階高めていた農場では未発生

★国内の野鳥の HPAI 発生状況及びカラスによる感染拡大リスク

今シーズン、野鳥での HPAI 発生は17道県118事例確認されました（2月25日現在）。近年の発生傾向として、水きん類だけではなくカラスでの HPAI 感染確認が急増していることがあります（今シーズン22事例）。

北海道大学の研究グループによると、10年以上前に流行したタイプのウイルスがカラスでどのように増えるか実験を行ったところ、肺や気管以外ではほぼ増殖せず、死亡する割合も低いという結果でしたが、ここ数年国内で流行しているタイプのウイルスでは、感染させた3羽すべてが6日以内に死んだほか、ウイルスが肺や気管だけでなく脳や腸など多くの臓器で増殖していたという結果が得られました。このことより、現在のウイルスはカラスで増殖しやすくなっている可能性があり、ウイルスが変化したためカラスで感染が広がっている可能性があることが指摘されました。

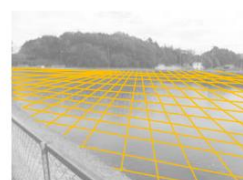
カラスは知能が高く、餌が見つかりやすい養鶏場に集まってウイルスを持ち込むおそれがあります。カラスを中心とした野鳥のコントロールが HPAI 対策として極めて重要であることが改めて明らかとなりました。

野鳥誘因防止のための対策をそれぞれの農場で見直し・検討し、来シーズンに向けてさらなる対策の強化をお願いします。

◆野鳥対策例のご紹介◆



鶏舎全体を覆う防鳥ネットの設置



黄色線…テグス

防鳥テグス

（ため池の上空にテグスを張り、飛来防止）

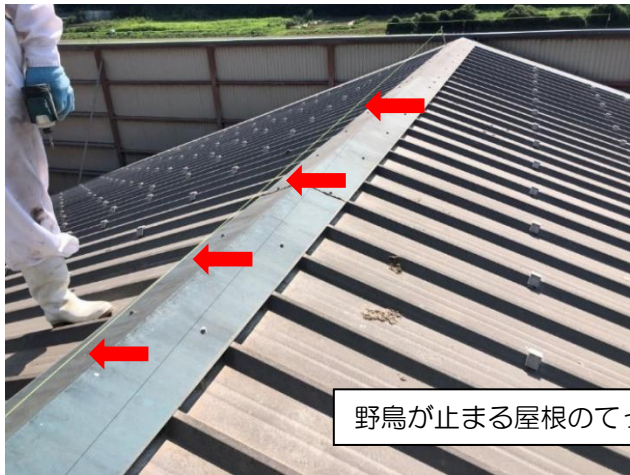
（家畜改良センター 兵庫牧場における野鳥・野生動物対策のご紹介より引用）



音声の出る機器による野鳥忌避
（タイガー株式会社より引用 商品名トリサッタ）



野生鳥獣を誘引しない対策
（飼料タンク周辺の餌こぼれ防止、鶏舎内こぼれ餌の掃除）
（農林水産省 HP より引用）



野鳥が止まる屋根のてっぺんや縁にテグスを張る



野鳥の休憩場所になりそうな屋根裏前にテグスを垂らしたり、屋根の構造物にテグスを張る

防鳥テグス

(実践している農場よりご提供いただいた写真)



カラスの飛来・侵入防止として**テグスを使う対策が有効**であると報告があります。

鶏舎屋根や空間にテグスを張り巡らせることで、野鳥が止まる場所をなくし、飛来を減少させることができます。

こぼれ餌などの誘因物の除去が基本ですが、テグスや防鳥ネット等で物理的な侵入防止・飛来阻害、音や光、忌避剤などで野鳥の嫌がる環境を作ることも重要です。

★堆肥の販売には届出が必要です

これから暖くなり、耕作の準備が始まると、堆肥の需要が増加します。生産した堆肥を他者に販売する場合は、肥料の品質の確保等に関する法律に基づき、「特殊肥料生産業者届出書」（第22条）及び「肥料販売業務開始届出書」（第23条）を県知事に届け出る必要があります。詳しくは群馬県農政課ホームページの「特殊肥料の生産について」及び「肥料の販売について」をご覧ください。

また、堆肥を散布する際は、強風の日を避け、風向きにも注意していただくとともに、散布後は、すみやかに耕耘をお願いします。

★定期報告書の提出をお願いします！

家畜伝染病の発生予防やまん延防止対策を図るため、家畜を飼養する全ての所有者は毎年2月1日時点の家畜の飼養状況を知事あてに報告することが義務付けられています。

提出期限は令和7年2月28日でしたが、未提出の方は提出をお願いします。
また、報告内容の確認等を随時行っていますので、ご協力をお願いします。

令和6年度から定期報告等の手続きが電子化されています

行政手続きの電子化に伴い、農林水産省共通申請サービス（eMAFF）を利用した手続きが令和6年度から可能となっています。電子申請の手続きをする場合は、事前に eMAFF ID の取得をお願いします。

手続きの電子化にあたりスマホ向けアプリ「飼養衛生ポータル」も利用できます。これまで同様、紙面での報告も可能ですが、オンライン申請を是非ご活用ください。

【電子化される手続き】

- 令和7年2月提出の定期報告（全家畜の所有者）
- 令和7年5月からの豚等の一斉点検（豚等の所有者）
- 令和6年10月から家きんの一斉点検は稼働中（家きんの所有者）



西部家畜保健衛生所 〒370-0074 高崎市下小鳥町233
TEL 027-362-2261 (緊急時 24 時間対応) FAX 027-362-2260

★ 畜産業を廃業された方に送付された場合は、お手数ですがご連絡ください。